

付属図書館の昨今

図書館長 伊藤 精亮 (農医S31)

本学を卒業あるいは修了された皆様方には、日頃所属図書館の運営にご協力いただき誠に有り難うございます。厚くお礼申し上げます。私が附属図書館長に就任して以来の約2年半に、感じたことなどについて若干触れてみたいと思います。

現在、大学図書館を取り巻く環境は、①学術情報量の激増、②電子媒体 (CD-ROM, On-line Journal 等) の急速な普及等によって大きく変化し、大学図書館の取り扱う学術資料あるいは業務内容は大きな曲がり角にきていると考えられます。従ってこの大きな流れに各大学が今後どのように対処していくかが課題となっています。本学のような国立大学の中でも小規模な単科大学も例外ではなく、文部省の財政的援助の他に、自働努力も必要なことではないかと考え、現在、附属図書館の現状と将来構想) のパンフを全教官に配布して、下記の項目についての問題提起とご協力をお願いしています。

- (1) 開館時間の延長 (日曜日開館)
- (2) CD-ROMサーバーの導入
- (3) 図書館予算の増額 (教官の自働努力)
- (4) 雑誌及び新刊図書 (研究費購入分) の図書館への集中管理

以上、大まかな附属図書館の昨今についてご紹介しましたが、本図書館は卒業生・修了生はもとより、市民にも開放されており、文献検索など相談がございましたら、学術情報係 (電話0155-49-5311) にご相談下さい。今後とも卒業生、修了生諸兄姉の変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

畜大キャンパス 1998 (学生部より)

学生部長 沢田 壮兵

今年の1月より学生部長を務めております。同窓生の皆さんには、日頃学生の就職をはじめとして種々お世話になっておりますことに対し厚くお礼申し上げます。キャンパスの近況をお伝えしまして、今後とも母校へのご支援をお願いする次第です。

3月に291名の卒業・修了生を送り出し、4月には362名の新入生を迎えて、本学はさらに歳を一つ重ねました。学部入学生267名のうち80.5%が北海道以外の出身でこれまでの最高となりました。全ての都道府県から志願者がありましたが、3県を除く42都道府県から入学しております。ちなみに都府県のトップは大阪府の20名でした。入学者のうち女子が130名で、平成4年以來ほぼ半数が女子学生という状況が定着しつつあります。久しぶりに母校を訪れた卒業生は構内が新しい建物ができて美しく変わったこと、農場に向かう自榨井水が大きく成長したことなどとともに、行き交う女子学生の数と容姿の変わり様に驚いています。また外国人留学生が増えたのもここ数年の特徴です。現在13ヶ国から48名の留学生が、家族を含めて100名ちかくが滞在しています。この他国際協力事業団 (JICA) の研修員も学内に来ておりますので、国際色豊かなキャンパスになっております。

今年は同窓生 (農医S22) でもあります72歳の黒川俊男さんが社会人特別選抜に合格して大学院修士課程に入

学し、話題になりました。大学院ばかりでなく学部でも少数ですが社会人 (高校生から5年以上の社会人経験者) が入学しています。第3年次編入制度により、短期大学や他大学で2単位以上を修得した人も入学しております。推薦入学の枠がこれまでの農業高校から普通高校に広がり、別科、大学院を合わせると13種類もの方法で入学者選抜が行われております。これに伴って多様な学生層が生まれつつあります。

学内外の情勢が大きく変わろうとしている中で、畜大の地理的・歴史的な利点を活かしながら、一人でも多くの有為な人材を社会に送り出したいと思っております。

開かれた附属農場を夢みて

農場長 嶋田 徹

今、農場ではゲストハウスのことがときどき話題になっている。「ログハウスがいい。」「前庭は広い芝生にして。パークゴルフをやるようにしよう。」「床面積30坪、坪70万円として2,100万円。どこからそんな。」「構内に伐期が過ぎたカラマツが大分ある。あれを利用して自分らで建てたら。などなど。

数年前のことである。京都で高校の先生をしている卒業生のK君がドライブでの北海道旅行で、家族に母校を見せるため立ち寄ってくれたことがある。その折、どこかテント宿泊する場所はないか求められて農場にお願いたしことがあった。「卒業生が母校を訪れたとき泊まれるゲストハウスがあったら」というのがその時の感慨であった。聞けば同窓生に限らずこのような訪問者は毎年かなりの数になるそうである。ただ現在の農場は宿直者がいないので給水とトイレの対応ができず、馬場周辺の芝地を利用してもらっているとのことである。

現在、農場庁舎前の2ha程の芝地を耕田してパークゴルフコースが2コース造られ、学生、教職員によく利用されている。私も女房と共にときどき遊ばせてもらっているが、外国人留学生が家族と共に、時には帯広市民などもプレイを楽しんでいるのを見かける。その際にコースを維持する農場職員のご苦労があってのことであるが、このことが大学関係者に附属農場をどれだけ身近なものにしているか計り知れない気がする。



(農場前のパーク・ゴルフ・コース)

附属農場の自然環境は素晴らしい。この素晴らしい自然をもつ140ha余の土地が、都市近郊にあるということもまた農場の大きな利点である。在学生の実習教育・研究が何より大事ではあるが、それだけに終わらせてしまうのは如何にも惜しい気がする。開かれた附属農場として全大学員に、同窓生とその師弟に、さらに帯広市民に

新たに新進気鋭の古林と志安（こばやしよしやす）助手をお迎えしました。獣医学講座の清水洋夫先生は地域共同研究センターの専任助教授に転出しました。また、家畜病院の助手ポストが4月より助教に熊替えとなり石川潤講師が、7月1日付で発令の予定です。原虫病分子免疫研究センター長に東京大学から見上憲教授が就任しました。JICAプロジェクトのモンゴル家畜感染症診断技術改善計画は2年目を迎え、長期派遣専門官として、後藤名誉教授が昨年10月より現地で技術指導に当たっております。

さて、我が国の獣医学教育の充実が叫ばれて久しい時が流れました。最近、獣医学教育を巡り、国際的に大きな動きが生じております。ご存じの方も多いと思いますが日本の医学部に匹敵する規模の獣医学部を持つ北米圏、旧大英連邦国ではすでにその教育基準を定めました。これを受けてEU諸国も、圏内での獣医師資格の相互承認を前提とした獣医学教育機関の相互評価を専断し、通貨統合が終了する1999年初めまでに「米英と類似の基準を採用することになります。また、タイ、インドネシア、フィリピン等の獣医学部も、研究面は別として、教育体制は日本、韓国、中国、台湾より大規模で充実しているようです（旧植民地政策の関係です）。従来での基準は、後、日本を含む極東諸国に対し、「欧米基準」の採用や改善を迫る外圧が予想されます。一方、大学基準協会は、昨年2月、わが国の獣医学教育の基準を、学生数60名規模の場合、18講座、教官数72名以上の基準が必要との改定案を示し、関係機関の努力を促しました。

グローバル化が急速に進行する昨今ですが、わが国の獣医師が国際的に対等に評価され得る教育システムの構築が急務です。獣医学の教育機関はもとより、獣医界全体がこのような状況を真摯に受け止め、わが国の獣医学教育の充実のために、英知を結集して対応すべき時期に來ているようです。

PPP 畜産管理学科 PPP

学科長 福川 豊

帯広畜産大学同窓会員の皆様にご当学科の近況を報告させていただきます。平成2年度に「家畜生産科学科」から現在の学科名に、平成6年度からは新カリキュラムのスタート。そして平成9年度からは旧教養課程の廃止で新しい教育課程を実現させてきました。学科内の講座も家畜管理分野と共生経済システム分野を含む「共生家畜システム学講座」を新設し人間と家畜、自然と畜産業の共生関係を生態学的および社会科学的観点からも解明し、持続可能な畜産の生産技術・社会経済システムの創造にかかわっております。

このほか、科内には「生産コース」として家畜畜種増殖学講座と家畜生産機能学講座が、そして「経営・経済コース」として畜産経営管理学講座と畜産資源学講座があります。いわゆる大講座制で、各講座に17名のスタッフ、計29名が教育・研究に従事しております。年々、スタッフも若返り、本年度も3名の新任教育を迎えました。国内・外の畜産状況は年々厳しくなり、環境汚染、飼料処理問題そして最近のタイオキシンなど家畜生産に関わる新課題に直面しております。前述したように当学科は「家畜生産」と「経営システム」の両輪を有しており、より広い視野で畜産業に貢献できる学生・大学院生

を輩出すべく、努力していく次第ですので、同窓会の皆様の暖かいご支援をお願い申し上げます。

AAA 畜産環境科学科 AAA

学科長 宮本 啓二

同窓生の皆様には2健勝にお越しのことと思います。3月には学部卒業生91名、修士課程19名が巣立っていきました。連合大学院の博士も数多く誕生しました。また、4日には学部には98名、修士課程23名が入学しました。最近では本学の入学試験制度も時代の要望により、受験資格前期・後期、推薦Ⅰ・Ⅱ、韓国子女特別選抜、社会人特別選抜、外国人特別選抜、3年次編入と多様化しております。入試に関わる業務だけでも大きな負担ですが、より良い入試制度を目指して努力しております。今年の入学生も男女半々で、キャンパスはますます華やかですが、昔を知る方々からは男子学生が弱々しくなったとの嘆きの声も聞こえてきます。女性も高等教育を受け社会進出することは当然のことですが、要生を送る教育にとつての最大の悩みは就職問題です。残念ながら現在の日本社会ではまだまだ女性の実力のほどを知らないようです。勿論卒業される理由に対する私共の社会に寄り込む努力と、女性として反論できるだけの自助努力が重要と思います。同窓生諸氏の後輩に対する絶大な理解とご支援をお願いいたします。

大学の組織改革が一段落し、新体制のもと戸惑いながらも大学料の長所を引き出せるように奮闘中です。しかし、変化を求める声はあまりにも矢張り早で、この10月に予定されている大学審議会の中間報告によりますとますます大きな改革が求められ、時代の変化の波に乗れない大学は淘汰される運命にあるようです。教職員はもとより、同窓生、地域社会一丸となって対処しなくてはなりません。

諸先生の人事につきましては、永年本学の教育、研究に貢献されました福永和夫先生、高畑英彦先生は停年退官となり、寂しくなりましたが、名誉教授として元気に活躍されております。新任教官として土地資源利用学に宗岡寿夫助手（日ノ藤）が採用になりました。後職としては美濃平輪先生が全同協の農学系地域共同研究センターの長として8年間ご活躍をされておられ、黒田徹先生は農場長として、また沢田杜氏先生は学生部長として大学の運営の重責を担っておられます。

前任の畜平は加川洋先生が教授に、梅津孝先生が助教授になられ、ますます頑張っております。また山本神朗先生に現在スイスBasel大学に、今年度中には谷先生がカナダSaskatchewan大学にそれぞれ留学されます。その他の先生方も教育・研究に奮闘中です。

21世紀に向けて少子化時代、国際化時代が確実に近づいています。我が学科も大きな時代のうねりに立ち回らなければなりません。教職員一同、勇気を持って頑張りますので、是非とも絶大なご支援の程をお願いいたします。

CCC 生物資源科学科 CCC

学科長 中野 益男 簡歴 S38

昨年1月教育課程改編に伴う本学科の改編以来、一年余りを経過しました。現在、再編移転後一年半経過した教養では、27名の修士課程、と11名の博士課程大卒

が学部学生と共に研究に力を入れております。この一年間に彼らを指導、教育する教官にも移動がありましたのでお知らせいたします。昨年10月に食品工学の石橋憲一助教授が教授に昇任されました。1月から鳥田謙一郎助手が採用され、ようやく畜肉保健学研究室の2人体制が解消されました。4月には大西正男助教授(生物機能化学)と大和田琢二助手(生物機能開発学)の教授および講師昇任と荒井誠吉助教授(酪農化学)の採用がなされました。荒井先生は乳質等に関する専門家であり、酪農の中心である北海道、十勝における乳質の研究・教育の面で指導的役割を果たしうる方であると期待しております。皆さんもお気づきのことでしょうか、教授定員が増えております。これはこれまでの改組等の機会に、助手の教授職振り替えが認められたからで、現在の教授、助教授、助手定員はそれぞれ10、7、5となっております。この4月から欠員ゼロの状態で見学研究教育に取り組んでおりますが、皆さんもご存知のとうり大学を巡る環境条件は次第に厳しさをまして参りました。私どもの学科も同様で、魅力ある学科づくりのためには研究教育のみならず、入り口(受験生の確保)、と出口(就職)の整備を図らなくてはなりません。私ども教育も総力をあげてこれら問題の解決に努力いたすつもりでありますので先輩諸氏におかれましては、もうした面でのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

共通講座

主任 梅津 勝

同窓生の皆さん、如何にお過ごしでしょうか。この文章を書いている今、帯広には全く久しぶりの空気が広がっていますが、密から入ってくる風は冷たく肌を刺し、季節はもう秋です。図書館前の植え込みのナカカマドも赤く色づいています。秋はいろいろなことを思い出させます。この文章を書くにあたって同窓会名簿を開いてみました。卒業式の後、「じゃーまた」と言って旅だつて行った皆さんの、懐かしい名前が並んでいます。

M君、父親の重圧とたたかっていたけれど、今は和解できていますか。たまには実家に顔を見せていますか。りさん、好きだった学生が他の女性と親しいに話しているのを見て絶望し、手首を切つて私の部屋に駆けこんできたけれど、今は一人の子供の母親たそうですね。無理をしないで子育てを楽しんでください。U君、ルー・アングラズは健在です。アズマ屋でゴルフをやって、気がついたら朝になっていたことがあったね。もう、あんな無理はできないけれど、いい思い出です。そちらでも釣りをやっていますか。こうして名簿を見ると、みんな半せ探しの旅人です。私も皆さんと同じく、手探りで生きています。いろいろなことがあってともげることなく、しなやかにしたたかに生きてください。

私は相変わらずの私です。教職も担当してしています。教育原理ではオカリナも作っています。しかし、11つでは教職教育科目でしたが今は共通講座の一員になっています。教養課程が無くなくなったというのはご存じだと思います。新たに共通講座が組織され、私も教育学としてこれに加わっています。今春は旧教務の鶴賀章夫先生(数学)が退官され、来春は心理学の中原淳一先生が休年で退官されます。社会学の中村期弘先生が愛媛大学に転出された後、関礼平先生が昨年也任されました。要

わらないようにできて徐々に変化しています。

皆さん生活でもいろんな変化があったことでしょうか。これからどんなことがあっても、知恵と遊び心を発揮して乗り切ってください。ご健康を祈念しています。

JJJ 別 科 (草地畜産専修) JJJ

主任 更科 孝夫 (獣医 S39)

エゾハルゼミの鳴き声も止み、ここ十勝もようやく夏らしくなって参りました。本年度は昨年度よりも多い34名(女子9名)の学生諸君が希望に胸をふくらませ、入学しました。出身地別には、道内が23(5)と約7割を占め、十勝が11、十勝外が12(5)、一方、道外が11(4)と約3割を占めました。出身高校別に33(8)のうち、道内高2(5)中、十勝12で、帯広農高8、芽室高2、帯広緑陽高1、新得高1で、一方、十勝外は11(5)と十勝とはほぼ同数を占め、網走湖陵高1、静内高2(2)、静内農高1(1)、茗荷農高1、標茶高1(1)、とわの森二愛高1、中標津高2、札幌第一高1(1)、函館城北高1と道内各地から、また、道外10(3)は、秋田県大曲農高1、宮城県名取北高1(1)、新潟県新発田農高1(1)、神奈川県中央農高1、愛知県安城農高1、福岡県嘉穂中央高1、東京都文京高1、京都府向日高1、京都府南宮高1(1)、大阪府春日丘高1と全国津々浦々から入学しており、農業高校出身者は17(3)で、道内が12(2)、道外が5(1)、また大学検定者が1(1)でした。経営概要では、農業26(5)がやはり多く、畜産関係が22(5)と多く、その中で酪乳14(1)が最も多く、酪乳1(1)、酪田1(1)鮮乳馬3(3)、一方農産関係が1で、また、農業外が(4)でした。このように、別科には全国から学生が集まってきたことが判ります。昭和35年に本学に別科が設置され、平成9年度までの37回にわたり、854名の修了生が社会の第一線で活躍しております。学生諸君の中には、父親も別科修了という子も結構おります。伝統さえ感じられます。学生諸君が2年を修了する時に、「やっぱ本学で勉強して良かったなあ」と思える様な教育が出来るよう関係教育共々頑張りたいと思います。

支部会からの報告

【ブラジル同窓会】

事務局 藤田宗昭(草地 S62)

1年に一度の祭典であるサッカーのワールドカップもブラジルの準優勝のもとにその幕を閉じました。その大会の最中、毎年恒例の帯広畜産大学ブラジル支部同窓会が、7月4日サンパウロ市郊外のヤトル農場内に開催されました。支部会員15名とその家族を合わせ45名の多数の参加のもと、速くまで歓談の宴は続けられました。

ブラジル支部は昨年設立20周年を数える事が出来、それを記念して今迄の歩みを記録した小冊子を作成致しました。それに伴い会の運営の更なる効率化を図る為に代表として浅井澄(獣医 S23)、副代表、小笠原英元(酪農 S32)、事務、藤田宗昭(草地 S62)、副事務、板垣隆(家生 S59)を選出致しました。日本よりも最も近くに位置する此処ブラジルも、日本に樹れる皆様とは身近なところでも色々と同係を持っております。酪畜産物の供給は言うに及ばず、サッカーや就労者を通しての人的交

流、海外最大の日系人社会の存在等です。これからの更なる国際社会化の流れの中、日本とブラジルの関係は益々緊密の度合いを増していく事と思われま。其の際に両国を結ぶ架け橋のお手伝いを出ればと願っております。末筆となりましたが諸先生はじめ同窓の皆様との御多幸をブラジル同窓会一同心よりお祈りする次第です。



上述の同窓会で道産歌を歌うメンバー：左から藤田(草農S62)、小笠原(酪農S32)、飯崎(酪農S40)、井田(酪農S28)、堀内(酪農S35)、横田(酪農S32)、新井(酪農S37)、渋谷(獣医S25)、浅井(獣医S23)、山崎(獣医S54)、吉山(酪農S46)、大浦(環境S57)、板垣(家生S59)です。

連絡先：Muneaki FUJITA, CP 259,
CAMPO GRANDE-MS, CEP 79002-970, BRAZIL.
自宅 Phone/FAX 001-55-67-725-7135
E-mail: moomoo@vip-cgr.co.br (日本語でオーケー)

【同窓十勝会】

会長 高田 薫 総農S31

同窓十勝会は、今年2月14日に誕生した最も若い支部です。これまでは、十勝管内をカバーする全体的な組織はなく、大学創立60周年を前に地元での同窓会活動を活発にしようとして昨年11月有志が集い、支部結成の準備委員会がスタートしました。2月14日に会員約1,800名の同窓十勝会として誕生しました。準備委員会から設立総会にいたるまで同窓の方々の熱意と同窓会大学本部事務局の全面的なご指導ご協力の賜と感謝いたしております。支部結成の過程では、帯広市長選立候補予定者に同窓会員の名があがり、支部結成に勢いがつきました。

設立総会当日は、久保嘉治学長先生、吉川時夫同窓会長から祝辞をいただき、引き続いての記念パーティーでは、砂川敏文会員(その当時は帯広市長選出馬予定であった)も出席、「畜大卒を誇りに思う。21世紀の帯広・十勝を日本一のマチにしたい。頑張ります。」との挨拶は、出席した会員の心にひびき、強い支援の声が広がりました。

同窓十勝会は、会員相互の親睦、交流と会員の豊かな発想、活動を促進するとともに、母校への発展に寄与することにあります。会員の幅広い活動を期待しています。最近砂川新市長にお逢いした折、帯広・十勝の発展のため頑張りたい。母校、同窓の方々のご活躍に勇気づけられます。」との話を伺いました。

本会には、大石 利也(池田町長；総農S33)、常山誠(芽室町長；総農S36)両会員が町民の信頼のもと大いに活躍されています。本会顧問としても活躍していた

きたいと思っています。

又、会員の方々は、帯広、十勝のあらゆる分野で活躍され、実績を積み重ねていることをご紹介し、母校の発展と会員の皆様のご健勝を願い近況報告といたします。



(左、砂川帯広市長；右、高田会長)

【札幌支部】

会長 毛利正秀 (獣医S28)

札幌同窓会は総会を約1年前の昨年8月8日札幌市北海道経済センターで開催いたしました。今回は従前と違って恩師の叙勲祝賀等の併行行事はありませんでしたが市岡英二会長(酪農S25)、竹嶋肇事務局長(獣医S30)始め幹事の手回しで100名近い参集を得て女性会員も参加して賑やかでした。総会は議長に小坂堂太郎氏(獣医S31)を指名し通常の事業報告、会計報告の他、主なものとして、1) 役員の改選、2) 事務局の移動、3) 顧問の推薦、が決議されました。事前の幹事会での協議もあり1)については会長に新しく毛利正秀(獣医S28)、副会長には池田春男(酪農S30)、安田熊(総農S31)、田畑甲子郎(獣医S32)の三氏が留任、幹事に新しく井川武彦(総農S30)と伊藤宏(化学S40)が再任、事務局は交替し局長に館善明(獣医S32)、次長に田田穂治(経営S52)が選出されました。2)は道畜産団体統合の含みもあり北海道肉用家畜協会より北海道畜産会館内日本馬事協会北海道事務所と決まりました。3)については歴代の会長である初代、杉山英大(獣医S18)、二代、遊佐孝五(獣医S18)、三代、松古寛(獣医S20)、四代、市岡英二(酪農S25)の各氏を前場一致で顧問に推薦いたしました。

続いて懇親会に入り小田原要西蔵前道議会議副議長(化学S24)の祝辞、顧問の紹介のあと、この夏の同窓会の目玉として正に時の人である同窓生、北海道国際航空株式会社副社長、沢田輝男氏(獣医S38)新任の酪農学園大学学長、安宅一大氏(草農S44)のお二人にそれぞれの分野での抱負を語ってもらい盛会の中に終了いたしました。

その後幹事会は10月28日(ニュー札幌)に開催され、1) 新田事務局の引き継ぎ、2) 新体制の融合合わせ、3) 事業計画、等が協議されました。平成10年11月29日(雪印ホール) 1) 幹事の補強、2) 総会の開催(平成10年は特別の事項がないかぎり見合わせ平成11年早い時期の開催を目指す) 3) 北海道国際航空支援持株会社希望者への連絡、4) 帯広市長立候補予定砂川敏文君(草農S45)の応援。

特に1)については本学の所在地である帯広市長を目指し畜大同窓生が立起した事、恩師である天間征先生が

沢川敬文君を励ます札幌の会」の会長である事、札幌同窓会の存在を示し母校の発展につながる事、などの理由で幹事会が積極的調議、応援体制を決めました。幸いにも圧倒的な大差で勝利する事ができ新帯広市長の誕生を心からお祝います次第です。

2月14日帯広畜産大学同窓十勝会（ホテルバイス）の発足に札幌同窓会を代表して会長毛利がお祝いにかけつけました。

その他、館事務局長には砂川後援会、励ます会の出席など、広範囲な会務と調整にご苦労をかけております。

【江別同窓会旗の紹介】

江別市居住の同窓生は、後に100名を越しており札幌同窓会に所属して下さるが近隣の誼からお互い付き合いの度が濃く年1〜2度の会合を持ち、江別同窓会（会長 伊藤富雄、獣医S20）と称しております。3年ほど前に同窓会旗（巾着）を作ろうとの提案がありました。「多くの大学同窓会には卒業生の証としての会旗があるが我が畜大にはない、いずれは厄介になるのでこの際、冠婚葬祭用同窓会旗を作るべし」と早速、池田春男氏（酪農S30）が中心とな

り企画、写真の通り立派な帯広畜産大学江別同窓会旗が出来上がりました。主目的が葬祭の性格上卒業年次の古い昭和38年頃までの同窓生で製作しその維持に卒業年次をくり下り参加を呼びかけていくことになっています。只、残念なことにこの3年間で3名の方が亡くなり巾着として使用されました。



【道南支部】

支部長 浅利 俊吉（酪農S23）

当支部の会員数は102名（H10.3.21現在）で、茂島管内1市16町の内、函館市内の49名を始め町に42名の計91名、松山管内10町の内、6町に11名が散在している。学科別では獣医科が最多の40%である。

支部会則など成文のものは無く、沿革も定かではないが発足の歴史は浅くない。おそくとも昭和25年頃には、旧専門学校卒業諸兄による定期的会合が行われていたとみられる。それは正月の第1か第2土曜日に地区獣医師会の新年例会で、これに集った諸兄が、この後、場を改めて支部同窓会にすたれたもので、卒業生が少なかったから、出席者は10名前後であった様子。当時、函館市役所に勤務していた故、鈴木康夫君（獣医S23）が会の事務局の役割を熱心に果たしてくれていた。当支部が50年近い歳月を連続として、互いに切磋琢磨、親睦調和の成果を継承しているのは、同君の献身的なご尽力に負うところが誠に大きい。

現在の活動は年1回、2月下旬から3月上旬、湯の川の温泉旅館を会場に総会・懇親会を開き、支部会員名簿を配布して情報交換を行っている。交通不便な松山・渡高の中・北部からは泊まりかけの参加者もあり、例年25〜30名と会員の約25%が出席してくれるのは喜ばしい。だが気掛かりなのは、参加者の常進化傾向にある。これは

支部に限らず、高校などでも、同窓会には卒業年次の若い会員の参加が少なく、幹事の悩みの種となっている。私を含め旧四年卒の会員は古桶を迎えて、間もなく消える。若い会員諸君が次々と引き続いて多数参加してくれるように、在学中の教習と学生、学生相互の触れ合いの深化を基礎に、同窓会活動の充実を図って、「大学」「同窓会」がGEMFIN-SCHAFTであることの認識が深まるようにと願っている。

【青森県支部】

支部長 諏訪内 博之（獣医S20）

平成9年度と同窓会は、11月22日（土）青森市新町2丁目「永くち会館」で開催いたしました。

出席者は毎年同じ顔ぶれで人数も20名前後でした。出来るだけ多く参加してもらう様努力しておりますが、残念ながら効果がありません。

次は、このたび帯広畜大青森県支部会員堀内浩氏（獣医学科S25年卒）の刻字展が、青森県弘前市一番町「田中屋西館」で7月9日（木）から14日（火）まで開催されましたので報告いたします。

堀内浩氏は、昭和40年代、日本書道教育学会員として学ばれ、刻字について、平成5年から山内清城先生の指導を受け現在に至っており、一昨年より「日刻展」に初出品し佳作賞、昨年は委員長賞、今年は秀作賞を受け、来年度からは無鑑査が約束されており将来を期待されております。

獣医開業の多忙な傍ら、刻字を研さんされてきた努力の人で、このたび個展を開催された勇氣と熱意には心から敬意を表すると共に、今後共獣医業と刻字とが両立されますようお願いいたします。

最後に母校と同窓会の発展と皆様のご健康をお祈りいたします。

以上近況を報告いたします。

【宮城県支部】

支部長 安部 優（獣医S31）

宮城県内に住む卒業生が同窓会を結成したのは、昭和19年のことでした。会員数はほんの五人ほど、ところが「宮城県支部」としての正式発足はなんと平成7年でした。物53年の間たれも大学同窓会事務局に支部設立を届けていなかったのです。これも、北海道の広いキャンパスで培われた。おおらかきゆえ、平成7年の総会で話題になって、はじめてきずいた有縁です。でも、それだけ自然に楽しく活動してこれた証と想っています。むしろ自慢してよいことでしょう。

現在の会員数は88名。毎年1回総会を開きますが、2〜3年に1回を希望によって泊まりがけで、集まるのは、日帰りでも60%。泊だと40%の出席率で、いつもは支部長挨拶が終わるのを待ちかねてみるまいにして乾杯もそこそこに、賑やかに情報交換やら何やらでワイワイガヤガヤ！それでも毎回必ずやる自己紹介はピタッと鎖まら、のちかになかからも楽しく聞いていてくれます。幹事からの番になるのは野次られることもあって、恐縮することもあります。

カラオケも用意しますが全く歌いません。年齢・性別に関係なく、みんな無礼講で車座になって、楽しく話が弾みます。17巻は卒業後1〜2年の会員が、先輩達から

大学の近況を聞かれる為に「こっちに来い」式でひっぱり回され、歓声が挙がります

総会の終わりに、学生の頃に口ずさんだ「帯広畜産大学追憶歌」「習志寮々歌」を全員が肩を組んで歌うのが恒例となっていて、歌いながら涙を流す人もいます。歌い終わればさっぱりとした表情で、二次会へと相携えて渡ってゆきます。「同窓生が集まると、帯広の匂いがある」とよく言われます。それが当支部の良さでしょうか。総会以外でも、誘い合って釣りやゴルフをするなど余り同志の輪は広がっており、同窓生と言うことで相見互いと言うか、助け合う気持ちがあって、偶にあってセクションごとの話し合いもあるようです。(地方紙等に本学同窓会宮城県支部の活動が掲載されたコピーが送られてきました)

【関東同窓会】

会長 守田貞公 (獣医S28)

本同窓会は今年3月29日に総会を開催し、役員を改選いたしました。主たる新役員は以下のとおりです。

会長：守田貞公；顧問：務方彦彦 (獣医S18)、宮崎日出夫 (獣医S18)、秋山正文 (獣医S18)、鈴木一郎 (農業S25)、他谷勉 (獣医S25)；副会長：永江勝 (農産S23)、梶 隆 (獣医S21)、海野玲子 (獣医S29)、田中正三 (獣医S31)；監事：各務俊彦 (酪農S35)、林博 (酪農S35)；幹事長：海部憲嗣 (獣医S32)。旧役員の方々のご苦労に心から感謝申し上げます。新役員につきましても同窓生の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

帯広畜産大学が誕生した頃から、その若々しい魅力で学生を指導してこられた大江 健先生が、今年の春の生存奮闘熱で熱三等旭日章をお受けになりました。関東地区同窓会ではこの日出度いニュースを聞いて有志が相談し、先生に記念品を贈って、この慶事をお祝いすることになりました。そして、7月20日に有志代表として守田会長、渡部幹事長および他谷前会長の三人で八王子の先生をお訪ねし記念品を贈呈しました。

先生は現在、奥様、ご子息の3人で毎日を過ごしておられますが、私たちの訪問は大変喜んで下さい、一家をあげて歓迎いただいたのには堪えて思節したところです。大江先生の益々のご健勝をお祈りいたします。尚、大江先生のお住まいは〒193-0932 東京都八王子市南町972-45です

【支部会結成状況】

これまで21支部が結成されました。今年度、新たに結成された支部が十勝会。報告されたものが道南支部です。全ての地域に支部の結成を重ねてお願ひ申し上げます。本部へこれまで報告のあった支部を以下に記載します。未報告の支部がありましたらご連絡下さい。

(敬称略)は支部長、会長または事務局などの代表者を示します

ブラジル同窓会 (浅井 澄)、同窓十勝会 (高田 茂)、柴室支部 (村瀬洋一)、富良野支部 (中根正彦)、札幌支部 (毛利正秀)、釧路支部 (石沢友男)、道南支部 (浅川俊吉)、青森支部 (諏訪内 博之)、秋田支部 (月澤 雅一)、山形支部 (三浦重明)、宮城県支部 (阿部優)、関東同窓会 (守田貞公)、福井支部 (寺本 賢)、滋賀

支部 (山中幾治)、三重支部 (東京信幸)、兵庫支部 (杉山 将)、鳥取支部 (朽木 肇)、島根支部 (安部 康之) 広島支部 (花岡康春)、愛媛支部 (横山政市)、九州支部 (深田泰三)

※ ※ ※ 同期会など ※ ※ ※

しのめ (帯広畜産大学三期生会報)

村田不二夫 (獣医S20)

三期生は、第二次世界大戦中に在籍し、終戦と同時に卒業と言った戦争の落とし子のようなものです。衣食生活全て無く、全ての人がゼロからのスタートと言った、ずいまい世の中でした。三期生はそんな中において、結束力ととも、いまだに一糸乱れず会を重ね、今日に至っていることを皆誇りに思っております。二期生はまだまだ健在であります。ご覧いただいたければ幸甚の至りです。と言うお手紙とともに、「しのめ」25と26号(通算37号日とか)の2冊の小冊子(30頁前後)が送られてまいりました。26号は趣味倶楽部特集号となっております。74名の会員の方々からアンケートを取り、53名の解答に基づいて色々分析された素晴らしいものでした。勿論、会員の方々の近況報告、地区の代表の方々からの報告もあり、美しいカットや写真も沢山掲載されておりました。私達の同窓会報もこうありたい、と思う内容でした。

この様な会誌を継続して発行されております大久保保夫会長、高木延吉事務局長兼編集委員長はじめ、会員の方々に敬意を表しますとともに、会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈りいたします。(これは村田先輩から、私信とともに送られてきた「しのめ」と言う帯広畜産大学三期生会報が余りにも立派でしたので、編集委員のお一人でもある村田さんの同意を得て編者が紹介いたしました。編集子)

かしわ林

(No. 46, 47, 48合併号 47周年記念函館級会特集)

帯広農業専門学校獣医畜産科昭和25年卒機園誌

帯広農業専門学校獣医畜産科昭和25年卒の他谷 勉先生(元家畜外科学講座教授)より「かしわ林」が寄贈されましたので、ご紹介いたします。

12名の方からの随筆や近況報告が掲載され、副題のつく函館でのクラス会の詳細と総会の内容が掲載されております。同期生のみならず奥様方のコメント等も掲載され、同期生の素晴らしい絆を感じる内容でした。さらに本学の名譽教授である大江健先生の特別寄稿文と先生の功績調書が掲載されております。

47周年の長きにわたる「かしわ林」が刊行されていることに敬意を表します。本誌は編集子が知りうるところで最も歴史のある同期生の機関誌であると思えます。これは編集を担当されている他谷先生のご尽力はもとより、本誌のような冊子は原稿が集まらなければ出来ないものでありますので、同窓の皆様の協力と他谷先生のご尽力がこの機関誌の継続の両輪でありましょう。

卒業30周年を迎えて

細川一昭 (獣医S13)

卒業30周年を迎え、5月31日の開学記念日に合わせてクラス会を開催しました。

私達は、昭和39年の入学から43年に卒業するまでに概

で席を同じくして学んだ仲間が、恩師の先生方にもご出席をお願いして、10、20、25、30周年の節目にクラス会を行ってきました。帯広市市内のホテルに集まった仲間と先生方は、約3時間思いで話や近況話などで盛り上がり、肩組みあって奮大進退歌を大合唱し、楽しいひとときを過ごしました。過ぎ去った30年を振り返った思い出話から拾ってみました。

20年ぶりに大学を訪れ、木造の校舎や旧習習寮が建っていたあたりに立ち、懐かしく思い起こしました。大学本館は在学中に供用開始となっていましたので、お世話になった家畜微生物学研究室にお邪魔して、懐かしさを肌身に感じる事ができました。

卒業関連、「国家試験でも受けてみるか」と勉強に力を入れました。「あまり無理をしない方がいいんじゃない」と忠告してくれる先生方の心配もどく吹く風と挑戦して見事合格、おかげで、クラス全員国家試験合格の栄誉を勝ち取ったのです。私たちのクラスには女性が少ない。今では、獣医学科学生の半分は女性となっているようであらやましい。日々進歩も成績も要かつ仲間には1年間経たず、おかげで社会に出てからも全く怖いもの無しです。

阪神淡路大震災でクラス仲間と名が被災した折には、お見舞いをとりまとめて送ったり激励の手紙を送るなどしました。今回のクラス会には、人とも残念ながら参加できませんでしたが、お礼を含めたメッセージが届き、復興した仲間の頑張りを皆で称えました。

事務局便り

終身会費が2万円に値上げされました。

平成9年10月18日の総会で会則が改訂されました。新会則を以下に掲載しますが、改正の要点は2点です。1) 終身会費を2万円に値上げしました。それに伴い入学時にいただく協賛金も2万円に値上げしたことです。2) 協賛金のことを明文化したことです。この会則改訂で、既卒業(修了)半の方で終身会費未納の方々の終身会費も2万円の協賛金が終身会費に振り替わる年度(学年などで2年後から5年後と変動しますが)から2万円にたたくこととなります。どうか、値上げする前に終身会費1万円の本納の方は納入を是非ともお願いいたします。

尚、昭和36年7月の総会で終身会費を2,000円徴収することを決定しておりますので、これを収められた方は納入不要です。

既卒業又は修了の方で終身会費未納の会員の方は名簿購入のための振替用紙を用いて(通信欄に終身会費納入と記入下さい)自ら申告で終身会費の納入をお願い申し上げます。

帯広畜産大学同窓会会則

昭和36年7月7日制定、平成7年10月16日改訂、平成7年10月14日改訂、平成9年10月18日改訂

第1章 総 則

- 第1条 本会は帯広畜産大学同窓会と称する。
第2条 本会は会員相互の連絡と親睦、並びに帯広畜産大学の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 同窓会報の発行
2. 同窓会名簿の発行
3. 帯広畜産大学の後援
4. その他本会の目的を達成するための必要な事業

第4条 本会の事務局は帯広畜産大学内に置く。

第2章 会 員

第5条 本会の会員は次の資格を備うるものとする。

1. 帯広畜産大学及びその前身の卒業生
2. 帯広畜産大学畜産学専攻科、大学院畜産学研究科、及び別科修了生
3. 岐阜大学大学院連合獣医学研究科及びびつて大学大学院連合農学研究科の修了生で本学の講座に所属したもの
4. その他代議員会で認められたもの

第6条 本会は帯広畜産大学およびその前身の同窓生以外の教育を特別会員とする。

第7条 会員は住所、その他の異動があった場合は、その都度本会に速やかに通知しなければならない。

第3章 役 員

第8条 本会は次の役員を置く。会長1名、副会長2名、事務局長1名、庶務1名、会計2名、名簿編集委員長1名および監事2名。役員会は前記の役員で構成し、本会の日常的な運営にあたる。本会は役員会の推薦により顧問を置くことができる。

第9条 会長及び副会長は代議員会において会員中より選出し、総会の承認を受けるものとする。その他の役員は役員会において会員中より選出し、代議員会の承認を受けるものとする。役員および代議員の任期は一期二年とし、再選を妨げないが、会長の任期は二期を越えないこととする。

第10条 会長は本会を代表し、会務を統理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

第11条 事務局長は庶務と共に会務を担当する。

第12条 会計は会費を徴収し、本会の資産の管理と予算の適切な執行を担当する。

第13条 名簿編集委員長は同窓会名簿の発行を担当する。本委員長は名簿の編集の円滑化を計るため、名簿編集委員を委嘱することが出来る。

第14条 監事は本会業務の執行及び会計の状況を監査する。

第15条 役員会は会長が召集しその議長となる。本会は構成役員の過半数の出席で成立し、会の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。

第16条 役員会は支部等から若干名の代議員を委嘱し、重要な会務を審議するために役員と代議員とで構成する代議員会を置く。

第17条 代議員会は会長が召集しその議長となる。代議員の3分の2以上の署名により会議の目的事項を示して請求があったときは、会長は代議員会を招集しなければならない。代議員会

は構成員の過半数（委任状を含む）で成立し、議事は過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長が決するところによる

第18条 代議員会は次の事項を審議する。

1. 予算及び決算
2. 会費の変更
3. 重要な資産の処分
4. その他の重要な事項

第4章 総 会

第19条 総会は通常総会と臨時総会とする。通常総会は原則として隔年で開催するものとする。臨時総会は代議員会において必要と認めるとき、または10分の1以上の会員の署名により会議の目的事項を示して請求があったときこれを開くこととする。

第20条 総会は会長が招集し、その議長は会員中より総会で選出する。

第21条 次の事項は通常総会においてその承認を受けるものとする。

1. 会則の変更
2. 役員人事
3. 資産目録

第22条 総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長が決するところによる

第23条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってこれに充当する。

第5章 資産及び会計

第24条 本会の重要な資産を処分するには、代議員会の決議を経て、総会の承認を得なければならない。

第25条 会員は、終身会費として卒業または修了後、速やかに20,000円を納めなければならない。但し、特別会員は会費を免除する。

第26条 本会の活動を支援していただく目的で、帯広畜産大学に入学される新入生に同窓会協賛金20,000円の納入をお願いする。この協賛金は卒業あるいは修了時に自動的に終身会費に切り替わるものとする。但し、何らかの理由で中途退学されるときには、本人から請求があれば返金するものとする。

第27条 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

第6章 支 部

第28条 本会はその目的を達成するために、必要があるときは支部を設けることができる。

第29条 支部を設置しようとする者は、その代表者から本会に届け出なければならない。

第30条 支部は支部会において、特別の定めをすることができる。

付 則 この会則は平成9年10月18日から施行する。

◎平成8年度事業報告◎

日 8年10月21日 3年次編入学および大学院合格者に協賛金納入願いを発送

12月14日 第1回役員会

11月25日 第1回役員会議事録送付

12月17日 平成8年度同窓会名簿発送

12月19日 別科推薦入学および学部推薦入学合格者に協賛金納入願いを発送

H9年1月9日 第1回役員会議事録送付

1月28日 畜大便りを各支部へ発送

2月6日 大学へ奨学金寄付金として10万円納入

2月10日 学部推薦入学IIおよび大学院合格者へ協賛金納入願いを発送

3月5日 学部前期および別科合格者へ協賛金納入願いを発送

3月14日 卒業および修了予定者に終身会費納入願いを配布

3月21日 学部後期合格者へ協賛金納入願いを発送

4月7日 関東同窓会へ大学から3名出席

4月15日 畜大便りを各支部へ発送

5月23日 第2回役員会

6月26日 第2回役員会議事録送付

6月30日 代議員会案内発送

7月26日 第1回代議員会

8月20日 畜大便りを各支部へ発送

9月18日 同窓会報、総会および名簿頒布案内発送

【平成8年度決算報告】

(平成8年10月1日～平成9年9月30日)

収入の部

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	12,080,698	平成7年度より
同窓会協賛金・終身会費	2,780,000	新入生239人 卒業生39人
名簿販売	2,088,000	名簿販売625冊、広告掲載料、ブラジル支部より
貯金利息	65,702	郵便貯金利息
合計	17,215,412	

支出の部

項 目	金 額	備 考
印紙代	3,174,276	名簿、会報、振替用紙、葉書、タックシール印刷等
通信・郵送料	1,185,095	名簿、会報等発送、料金受取人払い等
人件費	411,100	アルバイト料
振替手数料	54,916	香典、用紙、代議員会
事務費	117,702	
会議費	38,370	旅費
役員手当	99,957	
大学後援経費	100,000	事務系職員海外研修
パソコン購入	273,840	
特別会計	10,000,402	
合計	15,494,206	

次年度繰越金は1,721,206円です。

収支決算報告は会計年度の関係で1年遅れになります。ご了承下さい。本報告は会計監査を受け、昨年の総会で承認されました。現在、下記の予算で業務を執行中です。

【帯広畜産大学同窓会予算案】

(平成9年10月1日～平成10年9月30日)

通常会計：収入の部

項目	金額	備考
前年度繰越金	1,721,206	平成8年度より
同窓会協賛金	4,800,000	20,000×240名
終身会費	500,000	10,000×50名
名簿販売	2,000,000	3,000円×600冊等
雑収入	10,000	郵便貯金利子
合計	9,031,206	

通常会計：支出の部

項目	金額	備考
印刷代	3,500,000	会報、名簿、案内状、封筒等
通信・郵送料	2,200,000	会報・名簿発送等
人件費	600,000	アルバイト料
振替手数料	62,000	
事務費	800,000	用紙、コピー代等
会議費	250,000	総会、役員会等
役員手当	100,000	10名分
大学後援経費	400,000	
記念品代	330,000	新入生ハキーホルダー
特別会計へ	100,000	
予備費	489,206	
合計	9,031,206	

現在、この予算に従って事業を行っております。

特別会計：収入の部

項目	金額	備考
前年度繰越金	10,000,402	平成8年度より設定
通常会計より	100,000	
合計	10,100,402	

特別会計：支出の部

基金として貯めておくために支出予定ありません。

平成9・10年度役員名簿 (H9年10月18日決定)

役職名	氏名	卒業年次	電話番号
会長	山田隆夫	農学S25	0155-36-5607
副会長	安田 勲	酪農S31	011-375-3406
副会長	菊地晃二	酪農S38	0155-49-5510
事務局長	山田純三	獣医S39	0155-49-5350
名簿編集委員長	三上正幸	酪農S40	0155-49-5561
庶務委員	石橋憲一	農化S42	0155-49-5571
会計委員	松田清明	酪農S41	0155-49-5571
会計委員	松岡 栄	酪農S41	0155-49-5422
監事	佐藤邦忠	獣医S37	0155-49-5380
監事	小賀秀子	酪農S31	0155-48-1456
顧問	守田貞龍	獣医S18	096-353-3672
顧問	佐藤 勇	獣医S18	01506-4-5559
顧問	二浦弘之	酪農S30	0155-48-1655
顧問	岸上正治	獣医S18	0155-31-2330

1. 学内代議員(名簿編集委員を併任、敬称略、順不同)

所属学科	氏名	卒業年次	電話番号
獣医	茂	獣医S47	0155-49-5356
畜産管理	樋川明樹	酪農S46	0155-49-5436

学科	氏名	卒業年次	電話番号
畜産管理	三好俊三	酪農S42	0155-49-5410
畜産環境	近藤神三	酪農S39	0155-49-5505
畜産環境	岡本明治	草地S44	0155-49-5505
畜産環境	辻 修	農学S53	0155-49-5512
畜産環境	千場秀雄	農学S42	0155-49-5516
畜産環境	柳川 久	農化S57	0155-49-5502
畜産資源	小嶋道之	環境S55	0155-49-5410
生物資源	福島道広	環境S58	0155-49-5557

学内名簿編集委員(ご本人が多忙のため代議員は辞退)

別科	氏名	電話番号
酪農	酪農S49	0155-49-5715

2. 学外代議員(敬称略、順不同)

氏名	卒業年次	電話番号
森本 豊	農化S23	0155-23-3596
船戸 高志	酪農S25	0155-48-8615
村瀬 洋一	酪農S25	0155-62-4578
上野山 進	農学S26	0155-23-0293
白川 功	酪農S32	0155-42-4542
曾部 敏夫	獣医S31	0155-48-5981
山本 英宣	別科S37	0155-21-7801
局田ト三治	酪農S39	0155-62-3320
倉持 泰子	酪農S47	0155-48-9177
花房 茂一	草地S51	0155-35-4870
敦賀謙一郎	経営S51	01564-5-3648
樋口 俊章	獣医S52	0155-62-4351
堤立 真理	農化S61	0155-23-2240
大谷 能子	生産日元	0155-48-8883

同窓会活動の現状

同窓会の会則、第3条に本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。1. 同窓会報の発行。2. 同窓会名簿の発行。3. 帯広畜産大学の後援。4. その他本会の目的を達成するための必要な事業。となっております。1と2は確実に実施されており、名簿の都道府県別とか職業別名簿は学生の就職活動の為に活用されております。3の帯広畜産大学の後援は、これまでは創立50周年記念事業の時に支援するようなことが中心でしたが、昨年より学術交流協定を結んでいる大学への事務官の派遣による海外研修支援を始め、昨年は韓国。今年はブラジルへ研修に行っていたきました。この後援会には大学の事務系職員(技官を含む)の方々からも資金造成の時に多額の支援をうけておりますが、後援会はその目的から事務系職員の研修を支援できません。一方、教官は後援会から研究助成のみならず海外研修の支援も受けております。そこで同窓会が事務系職員の海外研修支援を始めた次第です。学長や事務局長もこの支援を高く評価され感謝されています。文部省の担当官からも評価され留学生の枠が増えたとか(?)。本支援は予想を上回る評価を受けております。

また、学生を支援するために、今年初めて大学祭の特別企画に経済的な支援を致しました。今後は、在学生に同窓会の存在とその意義をより良く理解してもらうために、入学式と卒業式に同窓会長の列席、もし可能ならば短いメッセージを送れるように大学側と交渉をしたいと考えております。40年前頃にはこれらがなされていたように記憶しておりますが、如何でしょうか。

同窓会でもっとこんなことをやって欲しい等の希望や

提案などがありましたら、事務局へご連絡下さい。宜しくご支援をお願いします。

帯広畜産大学後援会へのご支援のお願い!

後援会理事長、学長および同窓会長連名のお願いの文書が同封されていたと思いますが、後援会の現状をご賢察いただき、帯広畜産大学後援会にご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。個人会員は111万円、これを毎年振り込んでいただくこととなります。もし、毎年は苦しいけれど余裕のある年だけ振り込みたいとか、1万円は痛いけど5,000円なら支援出来る等のご希望がありでしたら同窓会へ名簿購入のための振替用紙を用いて振り込んで下さい。同窓会は団体会員として参加したいと考えておりますので、それに加えた形でまとめて後援会へ振り込みいたします。但し、我々同窓会は特定の公益増進法人ではありませんので、同窓会に振り込んでいただいたお金は課税免除の対象にはならないことをご承知お下さいます。とにかく貴門の資産でも現在の利息では微々たるものですので、宜しく皆様のご支援をお願い申し上げます。

同窓会会員の方に計報があった場合は、ご連絡いただければ事務局から同窓会長名の帯電を送りますので、喪主の方の氏名、葬儀の日時・場所等をお知らせ下さい。電話は講義などで繋がらないときがありますので、出来るだけFAXでお願いします。

連絡先:事務局 電話 0155-49-5350 (山田)
FAX 0155-49-5354
庶務 電話 0155-49-5571 (行橋)
FAX 0155-49-5577

【平成10年版同窓会名簿の頒布について】

同窓会名簿の平成10年版を年内発行を目指して作業中です。同窓会名簿ご購入希望の方は同封の振替用紙にてお申込みいただきたいと存じます(前価3,000円)。名簿の購入は、何時でも受け付けておりますので、随時お申し込み下さい。

昨年からは、用紙と五十音別索引にしたり、FAX番号も記載して、利用しやすい名簿に改善しました。また、職業別索引も作成しており、勤務先名を正確に統一出来るようにそれらの整備にも心掛けております。

同窓会名簿の整備につきましては、ご本人からの連絡が一番信頼できるものです。今年から、宛先を打出したもう一方側に、名簿に記載されている内容を印刷しました。内容に誤りがありましたら、赤ペンで訂正して、是非ご投函して下さいようお願い申し上げます(10月10日迄に届いたハガキについては、今回発行の名簿に掲載致します)。



本学もまもなく還暦

60周年記念事業アイデア募集

1941年に創立された本学も、来る21世紀には創立60周年を迎えます。人間ですと還暦です。そこで同窓会としては、先の役員会と代議員会で60周年記念事業を実施することを決定いたしました。そこで記念事業としてふさふさい事業を同窓の皆さんから募ることに致しました。今まで色々あがっている案として次のものがあります。1)校旗(学旗)と同窓会旗を作ろう。2)農場の一角にみんなが利用できるログハウスを建てよう。3)ブラジルの本学同窓生の子弟を本学へ留学生として迎えよう。4)記念式典に各支部の代表を招待しよう。勿論、全てがお金が絡むことですが、皆様の素晴らしいアイデアを事務局にお寄せ下さい。お願いします。



編集後記

同窓会報を今年もお届け出来ますことを嬉しく思います。前述の如く、素晴らしい同窓会誌が発刊されており、それらに較べて本誌が見劣りするのを補集子として大変残念に思います。毎年、少しでも充実させるべく努力しておりますが、教育・研究の合間に本誌を編集することには限界があります。十勝に在住され悠々自適の生活をされておられる方で本誌の編集を手伝っていただける方いらっしゃいませんか。全くのボランティアですが、同窓の皆様にも色々な情報を発信できる有意義な仕事だと思います。私もそう思って頑張っております。

学長先生のメッセージにありますように、本学も大変厳しい時代になってまいりました。お願いすることはばかりで大変恐縮ですが、終身会費の納入、大学後援会の賛助会員への登録など、宜しくご支援をお願いします。また、同窓会への色々なご意見を下記にお寄せ下さい。

最後までお読みいただき感謝致します!最後になりましたが、皆様の益々のご健勝を祈念いたします。次号をお楽しみに! 再見!

お知らせ (訃報)

昭和19年版医学科卒業で、本学第1番目の留学生であった旺欽氏のお子様から同窓会三浦顧問のところへ、氏の逝去を知らせる手紙が届きました。旺欽氏は今年5月22日に享年86歳で他界されたそうで、文面によりますと、氏は生前、本学への訪問を夢見ておられたそうです。

生前に交友のあられた皆様にご連絡申し上げますと共に遠隔の地で他界された大先輩の冥福をお祈り申し上げます。合掌!

ご遺族の連絡先を以下に示します。
010010 (中国の郵便番号) 中国内蒙古呼和浩特市
内蒙古自治区武庫机閣下部体養所9-2号
蘇日娜 (旺欽先生子女)

〒080-8555 帯広市福田町帯広畜産大学内
帯広畜産大学同窓会事務局
(FAX: 49-5354, e-mail: jyamada@obihiro.ac.jp)

